

○令和4年度 運輸支局長等による高等学校訪問結果

- 平成26年度より、自動車整備の仕事への高校生等の理解向上を図り、自動車整備の仕事に就職する若者を確保するため、国(運輸支局)が中心となり、自動車整備人材確保・育成推進協議会与連携して高等学校の校長等を訪問等し、自動車整備の仕事の社会的重要性、将来性について説明を実施しております。
- 令和4年度も、引き続き、全国の運輸支局長等が地方連絡会事務局と共に、4月から全国555校※に対して訪問を実施。
(参考(直近5年):令和3年度 572校、令和2年度 596校※、令和元年度 594校、平成30年度 577校、平成29年度 575校)
※新型コロナウイルス感染拡大防止対策を措置した上で実施。
- 訪問等した多くの高等学校で、自動車整備の仕事や整備士不足の状況を理解いただき、パンフレットによる校内での情報共有や、進路指導の際の選択肢として自動車整備の仕事を紹介する等の前向きな反応をいただいています。
- また、動画によるPR方法についても好評をいただいているものの、地元志向及び自宅から通学・通勤を希望する学生が多い傾向にあることから、地域における養成施設や求人などの情報展開及び保護者の要望によりミスマッチを防ぐ観点から、職場体験の実施を強く要望いただきました。
- いただいた意見・要望については、情報を共有するとともに、対応を検討し、今後の国と協議会の取組に反映させ、自動車整備士の人材確保に貢献することとしております。

	主な意見	主な要望
興味・魅力 イメージ	<ul style="list-style-type: none"> ・SNSにより、整備士として就職した先輩達からの自動車整備業界に対する悪評等がイメージダウンに影響している。 ・自動車整備のイメージとして暑い中での作業、危険、キツイ。 ・授業においてもタイヤ交換を実習でさせたりするので、整備業に悪いイメージは無い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・車に興味を持つためのきっかけとして、スマートフォンなどの画像でなく実物に触れる機会が増えると良い。 ・自動車整備士のネーミングをメカニック等のカタカナにしてイメージを変えることが必要ではないか。 ・中学生に対するアピールの場を設けさせて頂くとありがたい。
求人	<ul style="list-style-type: none"> ・近年は、ディーラやメーカー専門校の求人説明で、資格取得や寮費等に係る経費を一部免除する等の良い待遇が提示されることが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・求人を見るとほかの業種と比べて賃金が少ないが、自動車ディーラー等は必要な手当てが付くと聞いているので、その点も含め求人に載せるべきではないか。
インターンシ ップ	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ後に、自動車整備士を志す生徒がいる。 ・インターンシップ体験後の生徒の反応は良いと感じている。 ・出前講座が効果的。 	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップを増やすと、より多くの会社の情報が生徒に周知できると思う。 ・インターンシップの活用をお願いしたい。
経済的・ 奨学金	<ul style="list-style-type: none"> ・学費の関係で、整備士養成校を断念する生徒もいる。 ・進学できるか、経済的事情がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・就職後、企業側の全面支援で資格を取らせてくれる企業も増えてきているため、今後も期待する。 ・思い切った授業料免除、補助制度を導入すべきである。
給料・待遇 環境改善	<ul style="list-style-type: none"> ・就職先を決める優先順位は1. 地元であること 2. 休みが取れること 3. 給与の順で考えている生徒が多い。 ・国家資格ではあるが待遇が悪いと感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・整備士関係の給料を上げてほしい。 ・女性整備士の活躍の場をもっと紹介してほしい。
資格取得	<ul style="list-style-type: none"> ・検定料が負担。検定料を抑えてもらえればチャレンジする生徒も増えるのではないか。 ・資格取得について、何年で資格が取れるとわかると家族も安心する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学進学が多いので資格取得できる大学があれば教えてほしい。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車整備士の人材確保に向け、国家プロジェクトとして動いていることに感動した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運輸局さんが学校に来て増えるものではなく、業界がもっと頑張らなければならない。